食・農 ぴっくあっぷ

2026年1月号
No. 202
東海農政局

ウェブサイト

東海農政局長 年頭所感

べらぼうな東海の園芸とGREEN×EXPO 2027

新年おめでとうございます。
皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

東海農政局に着任して2年目を迎え、岐阜県、愛知県、三重県のさまざまな方のお話を伺いながら施策の推進を図るとともに、管内の食料・農業・農村の発展に向けた東海発の政策提案を東京にもっていく、そんな日々を過ごしてきました。これから国会では新たな食料・農業・農村基本計画初年度に編成した予算案の審議が始まりますが、昨年の年頭所感でも触れたとおり、国民全体として、わが国の農業の将来をどこまで「本気で」考えるのか、試される年が続きます。

物価高騰対策等、足元の課題への対応に加え、中長期的な視点から、未来に向けた政策を考え、提案していく必要性を改めて実感しています。食料の持続的な供給に関しては、まずは「食料を作る人」が安定して事業を継続し、安心して生活できる環境を作らねばなりません。国民一人一人のマインドが変わることも必要と考えます。このことに向き合いながら、前向きな気持ちをもって、本年も業務を進めてまいります。読者の皆さまにおかれては、引き続き東海農政局に対して、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

ところで、いよいよ来年2027年3月から、国際園芸博覧会（GREEN×EXPO 2027）が横浜市で開催されます。この博覧会は昨年10月に閉幕した大阪万博と並ぶ大規模な国際博覧会となります。Flower、Greenといった園芸のみならず、サステナブルな未来を目指したさまざまなテーマで展示が展開されます。実質的に本年が開催に向けた準備の大事な年になります。

東海地方は全国でもトップの花き産地であり、切り花、観葉植物、和洋鉢物、苗生産、種苗産業、古典園芸、さらには温室園芸発祥の地といった、さまざまな園芸に関わる産業が展開されています。江戸時代、徳川家でも珍重された万年青（おもと）の栽培や鉢の製作など、現代まで続く「園芸文化」が脈々と受け継がれる地域でもあります。この東海地方のポテンシャルを、博覧会でもぜひPRしていきたいと考えています。

「園芸の博覧会」の位置づけは重要です。お詳しい方もいらっしゃると思いますが、「ピース」というバラの名花があります。戦時下にフランスのメイアン氏が作出し、南仏がドイツに占領される直前に米国に「接ぎ穂」を移送し、1945年の太平洋バラ会議で戦争のない平和な世界を願い「ピース」と命名された品種です。このバラが我が国で初めて紹介されたのが1949年に横浜市で開催された世界貿易博覧会ですが、Flower＆Greenが発揮する癒し、心を穏やかにする作用、平和の象徴としての力は計り知れません。世界の情勢が混とんとする中、博覧会が開催される意義は非常に大きいと考えます。

東海農政局としても、各産地や事業者の皆さん、関係者を挙げてこのGREEN×EXPO 2027の成功に向けて盛り上げていきます。

皆さんにとって新年が幸ある年となるよう、祈念いたします。本年もよろしくお願いいたします。

令和8年1月
東海農政局長　秋葉 一彦

GREEN × EXPO 2027公式マスコットキャラクター
トゥンクトゥンク
©Expo 2027

令和7年度「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」受賞地区が決定しました

農林水産省および内閣官房は、「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として、農山漁村の活性化等に取り組む優良な事例を選定しています。
今年度は全国で30地区が選定され、このうち、東海農政局管内（岐阜県、愛知県、三重県）からは、2地区が選定されました。
また、全国選定に加え、東海農政局では東海地域独自の特徴のある優れた取り組み3地区を「東海農政局ディスカバー農山漁村（むら）の宝」として選定しました。

ディスカバー
農山漁村（むら）の宝
ロゴマーク

全国選定の2地区

《ビジネス・イノベーション部門》
「神都（しんと）の祈り」産学官連携日本酒プロジェクト　（三重県明和町）

- 平成27年に産学官連携の本プロジェクトが発足し、皇學館大学の学生による「祈りを宿した日本酒造り」を通じ、稲作・神事・酒造りの三位一体の農文化を継承。
- これまでに160名以上の学生が参加。多くが卒業後も町職員や起業家として地域に定住し、未来の担い手を育む持続可能な地域共創・活性化モデルを構築。
- 一年を通じた日本酒造り体験でファンコミュニティが自律的に拡大し、関係人口と持続的な経済効果に貢献。

自然の恵みに感謝し祈り捧げる祭祀

一般参加の酒米・日本酒造り体験

《コミュニティ・地産地消部門》　優秀賞
海女（あま）振興協議会　（三重県鳥羽市・志摩市）

- 海女の数全国一の本地域で産官学連携により、海女漁業・海女文化の価値づけに取り組み、国の重要無形民俗文化財、日本農業遺産、日本遺産に指定・認定。
- 平成21年から全国海女サミットを開催し、資源や漁場の変化など諸課題の情報交換により海女のつながりを創出。また研修会や勉強会を定期的に開催。
- 海女の漁獲物を加工し「海女もん」としてブランド化。令和6年度取扱額は369万円。

全国海女サミット2024

海女漁

東海農政局選定の3地区

《ビジネス・イノベーション部門》
株式会社プロジェクト・ラボ　（三重県伊賀市）

- 酒蔵、地域農家との連携で、田舎の身近な資源である米を使い日本酒を蒸留したジン（酒じん）を開発。
- イギリスのコンペでの受賞成果を生かし、国内外へ販路を拡大。
- 令和6年に（一社）日本・酒じん協会を設立し、企業との連携や世界に向けた情報発信を強化。
- 他地域へも酒じんの取り組みを展開。

地域の米を使った日本酒からジンを製造

《コミュニティ・地産地消部門》
徳川将軍家御膳米（ごぜんまい）生産組合　（岐阜県輪之内町）

- 輪之内町産米「ハツシモ」のブランド確立に向け、環境に配慮し栽培方法にこだわった米を、史実にちなみ「徳川将軍家御膳米」として全国へ発信。
- 御田植え祭等の体験活動で地域の米作りの伝統を継承。御膳米を原料とした日本酒や加工食品の商品化、学校給食への提供など食育の推進に取り組む。

町内のこどもたちが参加した御田植え祭

《個人部門》
堀部 貴紀（ほりべ たかのり）氏　（愛知県春日井市）

- サボテン栽培が盛んな春日井市の中部大学で、サボテンのCO_2吸収能力や食料・飼料への活用可能性の研究とともに、市、農業者、企業等が連携したプラットフォームを設立しサボテンの利活用を推進。
- サボテンを活用したカンボジア地雷原復興事業等の国際活動に専門家として参画。
- 市イベントやメディア・著作を通じサボテンの魅力と可能性を発信。

春日井市とイベント開催＆ブース出展（本人:前列）

詳細は東海農政局のウェブサイトをご覧ください。
https://www.maff.go.jp/tokai/press/noson_keikaku/251118.html

お問合せ先　農村振興部 農村計画課　　TEL　052-223-4629

「ノウフク・アワード2025」受賞団体が決定しました
～ココトモファームがグランプリを受賞！～

農林水産省は、農福連携に取り組んでいる優れた事例を「ノウフク・アワード」として表彰し、全国への普及を推進しています。

今年度の「ノウフク・アワード2025」では、応募のあった215団体の中から全国で21団体が受賞し、東海農政局管内（岐阜県・愛知県・三重県）からは4団体がグランプリを始め各賞を受賞しました。

2025 グランプリ　株式会社ココトモファーム（愛知県犬山市）

農福連携の取り組みにより自社栽培したお米を活用し、バウムクーヘンなどの米粉スイーツを製造・販売。地域外企業との連携や障害者が活躍する店舗の設置など、地域共生と多様性のある雇用創出を実現。

- 特例子会社中電ウイングと協働し、同社のいちごを使った「贅沢バウム ウイングいちご」を開発。農福連携を軸とした企業間連携という新しいモデルを展開。
- 手話接客を行うサイニングストアでは、聴覚障害者が主体的に店舗運営を行い、責任者も輩出。

贅沢バウム ウイングいちご

サイニングストアでの手話祭り

2025 準グランプリ　ぽかぽかワークス（名古屋市）

障害者、生活困窮者、ひきこもり、刑務所出所者等の多様な者で、農福連携×都市農業による米の付加価値向上を行う。また、ユニバーサル農園の開設により、多様な人材が参加・交流できる場を創出。

- ユニバーサル農園を開設し、従来の農業にとらわれず、間引き菜をその場で食べる、除草しながらおいしい雑草を探すなど自由で遊び心のある農体験を提供。
- 結婚式での親への贈呈品（新郎新婦の出生時の体重と同じ重さにした米）の販売や、地域との連携による「みんなで未来をつくろ米！プロジェクト」の取り組みにより、生産される米の付加価値の向上につなげている。

農業体験（草取り・ザリガニ捕り）

ユニバーサル農園での食事会

フレッシュ賞　特定非営利活動法人笑福（ふく）（三重県紀北町）

さまざまな関係者と連携して農林水産業の多様な仕事を農福連携等で請け負い、年間を通して作業を確保。生きづらさや働きづらさを抱えた障害者やひきこもり、生活困窮者等の地域における居場所づくりに貢献。

- 障害者個人の作業への習熟度に合わせ、いちごハウスの管理、新人への指導等も任せている。
- ひきこもりである者には、個人の特性に合わせて、しめ縄づくりやヒノキ加工等の内職に取り組んでもらうことにより、ひきこもりからの脱却につなげている。
- 休耕田の活用が60aから600aに拡大し、削減に貢献。

いちごハウスでの作業

ヒノキのせっけん

チャレンジ賞　株式会社マテリアル東海（岐阜県下呂市）

施設外就労として、養蚕の全工程およびいちごハウス内業務を委託。有効資源の活用と伝統産業の復興による地域活性化を図るとともに、雇用の創出や給与・工賃の向上につなげる取り組みを実施。

- いちごの栽培や蚕の飼育は数多くの工程があるため、障害の度合い・就労能力によって作業内容を分担。
- 市内唯一のいちご狩りができる場所として地域の子ども会をいちご狩りに招待。キッチンカーで、いちごを使ったスムージー販売も実施。

出荷前の繭（まゆ）の点検作業

いちごのスムージーを販売

2025 ノウフク アワード NOUFUKU AWARD　みんなで耕そう

ノウフク

「ノウフク・アワード2025」受賞21団体の概要はこちらから
https://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kouryu/251125.html

お問合せ先　農村振興部 都市農村交流課　　TEL　052-223-4630

お知らせ

「令和7年度東海地域有機農業フォーラム」を開催します

東海農政局は、「令和7年度東海地域有機農業フォーラム」を開催します。
生産者と消費者が有機農業について相互に理解を深め、有機農業のさらなる取組拡大につなげるため、国内における有機農業の状況に関する事例紹介と、東海地域の生産者、消費者および行政によるリレートークを行います。持続可能な農業について理解を深める絶好の機会ですので、ぜひご参加ください。

開催日時：令和8年2月17日（火）
13:15～16:00（受付12:45～）

場　　所：ウィルあいち
愛知県女性総合センター
3階 大会議室（名古屋市東区）
地下鉄名城線「名古屋城」駅 徒歩約8分
名鉄瀬戸線「東大手」駅 徒歩約6分

募集人数：150名（参加費無料）

応募締切：1月30日（金）

申込等の詳細は、後日、東海農政局のホームページでお知らせします。

【プログラム】

基調講演　秋葉 一彦（東海農政局長）
「みどりの食料システム戦略の現状と今後の展望（仮）」

リレートーク　「本音で話そう！有機農業と食卓の未来」
生産者代表、消費者代表、行政代表によるリレートーク

会場セッション　参加者全員でのバズセッション（ミニグループディスカッション）、登壇者によるフリーディスカッション、会場参加者からの質疑応答

有機農家同士のネットワーキングを兼ねた種子交換会を同時開催

主催：東海農政局、あいち有機農業推進ネットワーク

お問合せ先　生産部 環境・技術課　　TEL　052-746-1313

みどり戦略関連

温室効果ガス排出を大幅に削減する園芸施設への移行の取り組みを紹介します

農林水産省は、みどりの食料システム戦略に基づき、施設園芸分野では2050年までに化石燃料を使用しない「ゼロエミッション型園芸施設」への完全移行を目指しています。実現に向けて、中間目標年である2030年までには、省エネ型施設園芸設備（ヒートポンプ（注）、廃熱等利用設備等）を導入し燃油暖房機と併用するハイブリッド型園芸施設等へ加温面積割合の50%の移行を進めることとしています。
東海地域では、ヒートポンプ等化石燃料代替エネルギーを活用する施設が、2023年度には165haとなり、2018年度から70%増加しました。
今回は、化石燃料のみに依存しない省エネ型施設園芸設備の導入の取り組みを紹介します。

既存ハウスで従来の燃油暖房に、ヒートポンプを導入したハイブリッド園芸施設
（愛知県田原市：スプレーギク）

既存ハウスで従来の燃油暖房機をヒートポンプに転換した園芸施設
（愛知県豊橋市：大葉）

新設ハウスで隣接する食品工場の排水熱を加温に再利用する園芸施設
（三重県松阪市：ミニトマト）

（注）ヒートポンプ…農業用のエアコンで、家庭用エアコン等と同じ原理。

お問合せ先　生産部 園芸特産課　　TEL　052-223-4624

【編集後記】今年の干支は60年ぶりの丙午（ひのえうま）。躍動する「午」に火の力が合わさった勢いがある良い年とされています。皆さまにとって、本年が飛躍の年となりますように。

＜編　　集＞東海農政局 企画調整室　TEL 052-223-4610
＜ウェブサイト＞https://www.maff.go.jp/tokai/　東海農政局

「食・農びっくあっぷ」ウェブサイト　メールマガジンの登録はこちら　東海農政局公式 X